

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893100046		
法人名	株式会社 ケアマインド		
事業所名	グループホームこころ川西		
所在地	兵庫県川西市大和西5丁目24-2		
自己評価作成日	令和7年3月3日	評価結果市町村受理日	令和7年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/houkoku/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2-104		
訪問調査日	令和7年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、郊外の住宅街の中にあり、自然豊かな静かな環境に恵まれています。近隣の散歩を行ったり、スーパーで買い物やお茶を飲みに出掛け楽しんで頂いてましたが、現在コロナ感染の影響で行う事が出来ていません。新型コロナウイルスの影響により、施設内での行事が多くなっておりませんが、近隣との交流を継続するため、ボランティアや公民館でのイベント参加にも行っております。更に季節毎のイベントを実施し、その様子等を家族様へ報告するとともに面会制限も緩和しております。一人一人の個性と自由を尊重し、のびのびと暮らして頂ける環境作りを心掛け、ご利用者様とご家族と職員が共に支え合いながら「役割」「楽しみ」「安らぎ」のある生活を目指しています。ご自身で出来る事は行って頂き個々の力が維持出来る様に取り組んでいます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長を含め外国人の職員が6人いるが、利用者・家族との関係は良好である。開設からの14年半で地域とのつきあいが深まっている。コロナ禍で中止していた地域の祭りや防災訓練への参加等も再開している。運営推進会議の後には家族会を開催し、具体的な意見交換を行なっている。家族の要望に基づき、毎月の誕生日会には該当する全家族にも参加してもらうようにして喜ばれている。キッチンカーを呼んで近隣の子供たちとたこ焼きパーティーをしたり、利用者と職員で焼いたおやつのパッケージに小倉館でトッピングするなど、食の楽しみも大切にしている。感染収束に伴い買物や外食など外出支援へ積極的に取り組む意向であり、今年の花見は大きな車で一緒に出掛けたいと考えている。協力医療機関と連携して看取りにも取組んでおり、今年度は一人の方を安らかにお見送りした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

グループホームこころ川西

評価機関:CS神戸

自己 評価	三 者	項 目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員が中心となり「こんな施設にしたい」という思いを運営理念に「支援方針」として表現した。その結果として、地域密着型サービスの意義が盛り込まれた内容となった。思いを込めて実践に繋げている。	事業所の運営理念は開設当時の職員が中心に「・・・その人らしい人生が送れるよう心を込めて寄り添う」を支援方針として事業所内 の見やすい場所に掲げ、日々の実践ケアに繋げている。最近は事業の拡大に伴い法人 トップが全職員に思いを説明する機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事、防災訓練は参加しました。 地域の中学校の体験活動を受け入れる予定です。	地域主催の三世代福祉祭り、防災訓練、子供会の廃品回収、中学生の体験活動など交流は再開している。地域住民が散歩中訪ねてきたり、電話で相談を受けることもある。ボランティアの受け入れも4月から本格的に再開する。同業他社との交流会も今後検討する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方がお電話や直接訪問され、その都度相談を受けている。 コロナが落ち着いているときには、利用者と地域での散歩をして出会った地域の方と挨拶を交わし交流を図ってます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナが落ち着き始めたため、運営推進会議を11月から少しずつですが再開しております。今回は人数が少なかったため意見などが少なかったのですが2ヶ月に1回開催を再開します。	運営推進会議は家族、民生委員、福祉委員、キャラバンメイトなどが集まり対面で開催している。事業所の活動報告及び家族ほか関係者に伺った意見を議事録にまとめ、関係者全員に送付している。会議後の家族会では家族と事業所がより具体的な意見交換を行っている。	運営推進会議の議事録について出席者の意見だけでなく、家族の訪問時、電話やアンケートなど伺った意見の中で関係者で共有すべき内容について記載される事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括、社会福祉協議会、自治会等共に連携している。地域の方からの相談の中で必要な場合は、地域包括に繋げています。	市の担当者には運営推進会議の議事録を開催の都度、送付している。事故については市に報告すると共に、ヒヤリハットについては法人の施設長会議などで事故と併せて報告している。地域包括支援センターや社会福祉協議会とは日頃から連携に努めている。	

自己	三者	項 目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保の為、全ての出入り口に施錠はしている。研修等では、職員は、「禁止の具体的な行為」は、理解している。身体拘束委員会で研修会を行っています。、	身体拘束適正化委員会を年4回開催し、法人主催の研修を年2回実施して拘束の無いケアに努めている。不適切ケアがあれば職員間で注意したり個別に指導している。玄関は安全のため施錠しているが利用者に希望やそぶりがあれば職員が付き添って外に出る。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会で研修会を行い何が虐待にあたるか確認しあい、防止に努めて共有をしている。	高齢者虐待防止検討委員会を年4回、虐待防止の研修を年2回実施し、虐待の無いケアに努めている。法人によるストレスチェック調査を年1回実施している。職員には常に声掛けをしストレスの把握に努め、随時面談も行っている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は、研修等に参加して、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいる。現在、検討されている方はいない。必要時には支援を行って行く予定である。	現在、成年後見制度を利用している入居者が2人いる。制度に関するパンフレットや資料は常備している。今の所将来的に制度の利用が必要になりそうな利用者はいない。権利擁護に関する研修は計画されていないが、権利擁護に関して対応できる職員は3人いる。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書や重要事項説明書をもとに説明を行う。契約時及び随時不安や疑問を聴き、都度説明し納得して頂いている。	入居の申込時と家庭訪問時に事業所の概略を説明している。契約時に重要な文書について、具体例で分かりやすく時間をかけて説明し署名を頂いている。特に事業所で出来る医療行為や看取りについて丁寧に説明し、緊急時の延命処置の意思確認もしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来所時に意見を伺う事が出来、運営推進会議会員の皆様には、書面で報告する事により、外部へ意見を出すと共に、運営に反映する事が出来ている。	家族の意見や要望は運営推進会議等で来所の折や、電話で利用者の様子を報告する時に伺うようにしている。家族の要望に基づき、今年度は事業所の誕生日会に家族も招待し一緒に祝うようにしたところ非常に感謝され、今は全家族に声掛けをしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のフロアー会議等で提案された内容を、施設長会議において代表者様も参加し、協議する仕組みが出来ている。	管理者は年2回職員と面談しメンタル面のサポートを含め意見・提案を聞いている。法人役員も時々事業所に来て職員と直接対話している。また今月からドクター対応、環境整備、消耗品などを各職員毎の担当制にして意見を運営に活かせるようにしている。	

自己	三者	項 目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な研修及び、目標に対する評価を行い、向上心が持て、働けるような環境作りに努めている。又、各職員に対し、適正な評価を行うように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務に必要な研修は年間計画を立て行っている。又、外部研修参加も推奨している。研修参加者は、全体会議にて報告し、学習内容の整理と他職員への伝達トレーニングも実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナが落ち着き始めたため、交流の機会を作り積極的に参加しようと思う。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、自宅訪問を行い、本人、ご家族の情報を聞き取り、他職員と共有している。入居後は、本人の訴えを傾聴し、ご家族と密に連絡を取りながら、ご本人に安心してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅介護の困難さや、不安について話を聞くと共に、入居した場合のメリットやデメリットを説明しご本人にとっての最善の方法を話し合う事で関係が築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の意思や緊急性等は入居者と職員が決定している。入居後の個別サービスについても、ご家族と話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意欲や意志などは能力に応じて、出来る事はして頂く。又、手伝って頂ける際は手伝ってもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や普段の来所時のご家族との交流により、良い事も悪い事もお伝えする中で、お互い協力し合っこそ、解決出来る事があると認識しています。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の友人、御親戚等の面会も自由に行って頂き、電話連絡等も行って頂いています。	知人・友人の来訪、法事、家族行事、ショッピングモールでの買物などの支援は概ねコロナ以前の状態に戻っている。また入居期間が長く外出希望の無い利用者には、見晴らしの良い居室で窓から見える四季を楽しんで頂ける様に工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の態度や言葉、グループでの会話等から利用者同士の関係を把握している。孤立させない様に工夫したり、和める会話に切り替える等、関わり方の環境を模索しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談があれば応じている。入居者様の少しの変化や気づきがあれば細目に家族様へ連絡をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人居室担当を決め担当職員が日々の関わりから意向を聴き出し、計画作成者と相談して本人の意向にあうよう努めている。	入居前及び入居時に利用者本人及び家族に面談して思いや意向を聞き取り、介護計画に反映している。入居後は居室担当を決めて、日々の関わりの中で把握した意向等を記録して、会議や申し送りで共有し、本人の思いに添って支援するようにしている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りやアンケートにより把握している。又、入居後は、ご家族やご本人との会話から聞き取り、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや、会議での報告等により、日頃の健康状態や過ごし方等現状の把握が出来ている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、居室担当がモニタリングを行っている。介護計画見直し時には、ご家族、ご本人、計画作成者、居室担当等が集まり、カンファレンスを行い介護計画を作成している。	介護計画は基本的に半年ごと、又は入院などの大きな変化があったりした場合はその都度に見直している。サービス担当者会議を開催し、場合によっては計画作成担当者が電話で関係者の意見を聞き、計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	対応や、ケアの実践結果について意見や気づきをケア記録や申し送りノート等に記入して共有することで、新たな発見もあり、介護計画の見直し等を行っている。		

自己	三者	項 目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は、出前を取り、施設以外の食事を楽しんで頂くのみである。今後は模索する予定である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は行う事が出来ていない。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医やかかりつけ医等必要に応じて受診が出来るように行っている。受診できない方の為、往診して下さる医師との繋がりを持って支援を行っている。	利用者は全員が入居時に事業所の協力医である医師をかかりつけ医に選んでいる。医師の往診は月2回、歯科医の往診も月2回あり、歯科衛生士による口腔ケア指導が毎週ある。他科で以前からの専門医にかかっている方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	自社の看護師が、毎週来所して、心身状態を確認している。状態悪化時も24時間対応しており、主治医との連携持っているため、安心できている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の病院紹介や、連携で安心して検査、治療が受けられている。入退院時においても都度病院に出向き、情報交換や相談を行っており、良好な関係が気づけている。	嚥下機能が低下して誤嚥性肺炎になった方や、転倒して骨折された方など、年間10人前後の入院がある。入院の際には地域連携室などを通じて情報入手につとめ、早期退院や退院後の円滑な生活につながるよう支援をしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについての取り組みを家族会で話し、アンケートによるご家族の意向も聞き取っている。看護師、医師とも協力体制は出来ており、看取り時には、改めてご家族を加え話し合い支援を行っている。	入居時には「施設での看取りに関する指針」などを用いて、重度化した場合やターミナル期における支援について説明している。協力医療機関の医師・看護師と連携して看取りにも取り組んでおり、今年度は1人の方を安らかにお見送りした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員へは、救急救命方法の研修を推奨している。防災訓練時にも研修を受ける等実践力を身に付けるよう取り組んでいる。		

自己	三者	項 目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(近隣住民の協力・本年度なし)防災訓練を行い、他に年1回自主防災訓練も行っている。又、地域の防災訓練にも参加しており、協力体制を築いている。	年2回夜と昼を想定した消防訓練を、近隣住民との協力(今年度は無かったが)のもと行っている。自治会による独り暮らし高齢者の支援訓練にも参加し、利用者の避難について話し合っている。土砂崩れの際は地域の避難所を使わせてもらうことになっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	浴室は個浴、居室も個室であり、プライバシーの配慮を行い、権利擁護や虐待の研修も行い、プライバシーやプライドについても配慮した対応を心掛けている。	プライバシー確保の研修を年1回行っている。利用者の名前は苗字で呼んでいる。なれなれしい声掛けなど、職員に気になる言葉遣いや不適切な言動があった場合は、見聞きしたり報告を受けた施設長が適切に指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通の出来る入居者には自己決定を尊重し、意思表示が出来にくい入居者については、言葉を選んだり、選択肢を提示する等希望を確認する工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは有るが、その日の利用者様のペースに合わせて対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に選んだり1日を穏やかに過ごして頂ける様に支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭き等を出来る方は手伝ってもらっている。下膳も出来る方にも行って頂いています。会話の中でどのようなおやつや食事が食べたいのか会話にて聞き取るようにしている。	食事は業者の調理済み料理を温める等して提供している。配膳や後片付けに参加する利用者が3人ほどいる。時には食べたいものを聞いて提供しており、今年度はたこ焼きのキッチンカーを呼んだり、パンケーキをトッピングして楽しんだりしている。	コロナ禍により、利用者も調理に参加する食事レクリエーションが出来なくなっていると思いますが、感染収束に伴い将来的には行なっていられることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量や水分量を記録し、把握している。食べ易い形態で提供したり、ゼリーや好きな飲み物を提供する等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを実施。又、月2回、歯科医師、毎週の歯科衛生士の口腔ケアを受け、職員への指導もあり、連携して口腔ケアを実践している。		

自己	三者	項 目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のオムツ使用形態や排泄パターンを記録し、職員間で共有している。パターンを活かし、日中は、トイレ誘導を行う等工夫している。	排泄が自立し自分でトイレに行く方は10人位いる。おむつの方は日中に1人、夜間は3人いる。パットを使用している方は数人である。排せつチェック表で排泄パターンを把握し誘導することで、日中はかなりの方がトイレでの排泄が来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘により不穏となり、その後に及ぼす影響を個々に把握し、トイレ誘導のタイミング、服薬コントロールを共有している。又、腹部マッサージ、水分補給など個々に応じた予防を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者1人に対し、週2回から3回実施している。入浴拒否等がある場合は、時間を空けて声掛けの職員を変えるなど工夫し、入居者に応じた対応を心掛け、気分良く入浴できるよう支援を行っている。	入浴は週2～3回、午前又は午後に行なっている。入りたがらない方には、時間帯を変えたり声掛けを工夫する。浴槽2つのうち1つはリフト浴にできる。ゆず湯やしょうぶ湯で季節を感じてもらっている。入浴剤は肌荒れする方もいるので使っていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠リズムを把握して、入眠時間も個々に対応している。眠れない時には、気分が落ち付き眠れるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書にて、薬の用法等理解している。又、疾病との関係性にも注意し、症状の変化等が有れば、主治医に相談し、指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、趣味、好みを把握すると共に、現在の体調や趣味も加味した上で、レクリエーションの参加を促している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は行っていない。ご家族間のやむない事情のみ対応している。	ベランダでの外気浴や施設周辺の散歩はよく行っている。コロナ禍以降、外出は控えてきたが、自立できる方には、買物や外食、車での遠出などに取り組む意向である。今年のお花見は、大きな車で出かけて公園などでできたらと考えている。	外出を控えてきたことで、利用者のストレスも溜まっていることと思われます。お花見をはじめとする外出行事を実現されて、利用者に大いに楽しんでもらうことを期待します。

自己	三者	項 目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金や、貴重品の持ち込みはお断りしています。買い物や希望に応じての使用については、立て替えをしており、可能な限りの支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みはお断りしています。手紙のやり取りは自由です。電話は、希望された時は、施設の電話を使用して頂いています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ家庭的な環境や季節感を感じて頂ける様な装飾に努め、居心地の良い様に工夫しています。	リビングは落ち着いた色調の調度や家具で、家庭的な雰囲気が醸し出されている。壁には月毎に利用者と職員と一緒に作る「花さかじいさん」や「小学1年生」などの季節感あふれる大きな貼り絵が、飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子や、テーブルは組み合わせが自由にできる家具を使用し、その時々状況や雰囲気で組み合わせを変える等工夫し、気兼ねなく過せる居場所を作っています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時等に、使い慣れた家具や道具を持ち込まれ、居心地よく工夫しています。	居室にはベッド・エアコン・カーテンと1間の押し入れが備え付けである。利用者がそれぞれ好みの家具やテレビ、仏壇等を持ち込み、家族の写真などを飾って、居心地の良い空間が設えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面は、両端を自立型に、中央は介護型に配置する等それぞれの心身機能に応じて自立を支援できるよう工夫している。		

自己	三者	項 目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容